

．実践に向けて

環境学習を実践した場合の効果としては、環境面での効果、地域振興面での効果、さらには、将来的における観光面での効果が得られると予想される。

1. 想定される実践効果

1.1 環境面での効果

(1) より良い環境の創造のために行動する能力・態度を身につけた人材の育成

環境教育の目的は、「環境や環境問題に感心・知識をもち、人間活動と環境との関わりについての総合的な理解と認識の上になって、環境の保全に配慮した望ましい働き掛けのできる技能や思考力、判断力を身につけ、より良い環境の創造活動に主体的に参加し環境への責任ある行動がとれる態度を育成する」ことである（環境教育指導資料、1991年3月、旧文部省）。

環境学習を通じて、環境問題に対する関心や認識を深め、グローバルな視点から環境問題の解決や環境保全のあり方について考える能力と態度を身につけた人材を育成することが期待できる。

(2) 環境保全意識の普及・啓発・活動の活発化

環境学習を通じて身近な自然環境に親しみ、その大切さを認識することによって、ゴミ・空き缶等の投げ捨てを減らし、地域環境を大切にしようとする環境保全意識が高まり、環境保全・美化活動が活発化する効果が期待できる。

(3) 自然環境の保全

環境保全活動が活発化し、環境問題の解決や環境保全のあり方について考える能力と態度を身につけた人材が育成されることによって、泡瀬干潟や比屋根湿地等の良好な自然環境を保全することが可能となる。

1.2 地域振興面での効果

(1) 活力ある地域の創出

環境利用学習では、沖縄市の自然環境や歴史、文化などの価値を再認識し、これを活かしたプログラムが展開される。このため、市民が自らの住む土地の価値を見直し、これによって地域に対する誇りが醸成される。さらには、環境利用学習に参加する他地域の人々との交流により、意識の活性化が図られるなど、沖縄市民に活力をもたらし、地域全体の活力が増すことが期待できる。

1.3 観光面での効果

(1) 観光客の増加

現在、沖縄市への観光は、ライブハウスや民謡酒場での音楽鑑賞や、沖縄全島エイサーなどのイベントが主体である。

国民の観光行動は、いくつもの観光地を見て回る「周遊観光」から、ひとつの地域にとどまって自らの体験を通して自然や文化を楽しむ「体験観光」への関心が高まっている。

環境利用学習という新たな誘客魅力づくりによって、従来の観光客に加えて、さらに環境利用学習への参加を目的とするマーケット層の来訪が期待できる。

(2) 滞在日数の増加

環境利用学習は、2時間から半日程度、あるいは1日や数日間かけて実施されるプログラムである。このため、環境利用学習参加者の増加によって、日帰り客の宿泊化など、滞在日数の増加が期待できる。

(3) リピーターの増加

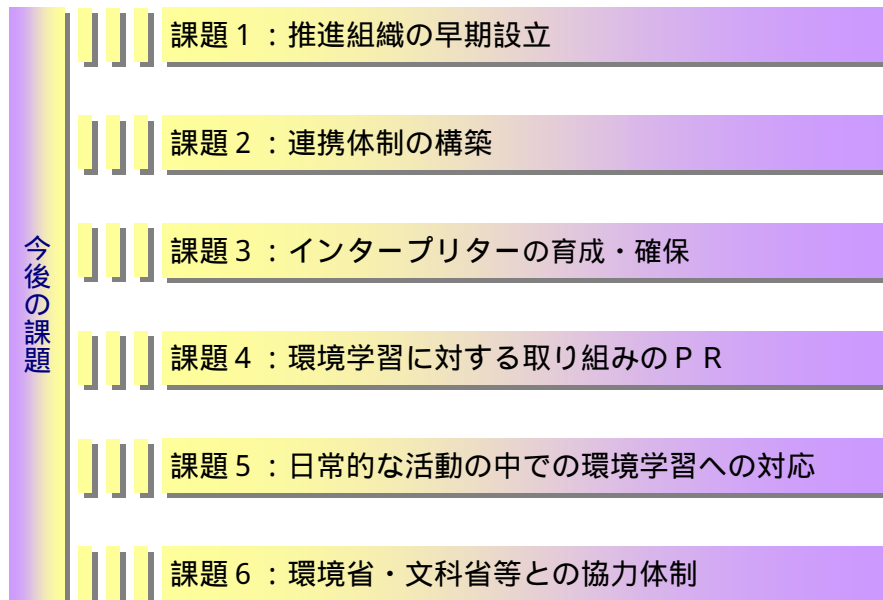
環境利用学習では、季節に応じた素材を活用した季節ごとのプログラム、解説素材の組み換えによる異なるシナリオのプログラム、調査や研究によって解説内容をさらに発展させたプログラムなど、複数のプログラムの企画が可能であることから、一度訪れた旅行者であっても再度来訪させ、リピーター化させる可能性を有するものである。

(4) 修学旅行の受け入れ増加による計画的な事業運営が可能となる

学習効果を高めるために、旅行先で体験活動を取り入れる修学旅行や、総合的学習の時間に環境教育をとりいれるケースが増えており、環境学習に対する期待が高まっている。修学旅行は、おおよそ1年前には実施が決まるので、宿泊を受けもつ施設等にとって、年間を見通した事業運営が可能となる。

2. 今後の課題

以上までの検討結果を踏まえ、今後の課題について整理した物を以下に示す。



これら課題を解決するためには、まず、行政、地域住民を主体とした推進組織の早期設立が、最も重要な課題となるものと考えられる。